

生まれ変わる袋井の玄関口

新しい袋井駅の計画をお知らせします

市では、JR袋井駅（以下「袋井駅」）の南北自由通路新設や橋上駅舎化について、平成17年度に基本調査、平成18年度に概略設計を実施し、平成19年6月15日に東海旅客鉄道株式会社と覚書を締結しました。今後は、秋ごろ工事協定の議決を経て、詳細設計に着手します。

問 都市計画課まちづくり整備室 ☎44 3163

Q? なぜ自由通路を作ったり駅舎を改築したりするのですか？

A! 現在の袋井駅は北口のみで、袋井駅南側に住んでいる方は、すべて北口に回らなくてはなりません。このため、旧袋井市と旧浅羽町の合併の際、袋井駅を南口から利用できるようにするために、新市建設計画において速やかに整備するよう位置付けられました。

また、高齢化の進行により、公共交通機関の重要性が高まる中、すべての人が使いやすい交通拠点として整備する必要があります。

袋井駅南口の開設は、南北の均衡あるまちづくりにより、本市が将来に向けて持続的に発展していくための都市基盤として整備するものです。

Q? どうして橋上駅にするのですか？

A! 袋井駅を南口からも利用できるようにするとともに、南北

を自由に行き来できるように新しく通路を設けます。

この通路を新設するには、現在の駅舎を移転する必要がありますが、南口、北口のどちらからでも利用しやすく、最も効率的で望ましい形が橋上駅です。

4番線ホームへの通路を利用した昔のような南口の開設や地下道を改修することも手法の一つですが、現状の段差の解消、幅員や高さの確保など課題が多いため、通路の新設をすることにしました。

Q? 南北自由通路や駅舎の位置はどうなっていますか？

A! 南北自由通路や駅舎の位置は、次の条件から決定しました（左図参照）。

- ・事業費を抑えるために最小限の建物移転とし、敷地東側の建物を残すこと。
- ・南北自由通路及び橋上駅舎の建

設中も跨線橋（たばんきょう）を使用するため、歩行者の通路を確保すること。

・改札口からホームに向かう階段に上り下りエスカレーターを設置するために必要なホームの幅員を確保できる位置であること。

Q? どのようにデザインを決めたのですか？

A! 袋井市都市景観デザインコンセプト懇話会などから意見をいただき、市の自然里山・川・海（歴史（神社・仏閣）、産業（田園・茶園等）の景観に共通する「緑」と「水」を市の玄関口である駅周辺の景観に反映することとしました。

南北自由通路と駅舎のデザインは、この景観と調和し、まちのにぎわいや人々の交流の拠点としてふさわしい、「人々が集つ 杜（もり）と水に調和した駅」をコンセプトにしました。

完成予想図（北口）

JR袋井駅周辺の道路整備



今後の整備スケジュール

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
駅舎改築					残工事
道路	供用開始				
駅前広場	供用開始				

施設概要

- 南北自由通路
- 現在の跨線橋の東側に配置。
- 通路の長さは約50m(階段部分を含むと約90m)で、幅員は約8m。
- 北口、南口階段にはエレベーター、上り下りエスカレーターを設置。
- 橋上駅舎
- 現駅舎と同程度の規模で南北自由通路に接する位置に移転。
- 2、3番ホームへは、階段のほか、エレベーター、上り下りエスカレーターを設置。

事業費 約31億円

自由通路、橋上駅舎及びこれらの建設に関連する仮設工事費等国庫補助金(約13・6億円)、合併特例債(約15・1億円)を見込んでおり、市の財政負担の軽減を図ります。

意見をお寄せください
新しいJR袋井駅について市民の皆さんの意見を募集しています。

都市計画課まちづくり整備室
☎443163
FAX 443145
✉ toshikeri@city.fukuroi.shizuoka.jp
ka.jp

◎エスカレーター、エレベーター

高齢者や障害者の皆さんの負担を軽減するため、自由通路南北の階段と改札内にエレベーターとエスカレーター(上下)を設置します。

◎トイレ

自由通路階段下(南北)及び駅舎内にトイレを設置します。

◎待合いスペース

駅利用者からの希望が多い待合いスペースを設置します。

◎南北自由通路

花火大会などのイベントに対応するとともに、将来的にも車いすなどの交通が円滑に行われるよう、幅員は、柱中心間で8mとします。

◎観光案内所兼地場産品展示販売施設

自由通路北側階段の東側のスペースに、観光案内所と地場産品展示販売施設などの導入に向けて検討を進めます。

◎南口駅前広場

面積約3,800平方メートルの南口駅前広場。広場から主要地方道袋井大須賀線まで都市計画道路(南口駅前線及び駅南循環線)を整備します。

